

レタス（平坦地夏まき）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
作型													
主な作業								播種	定植	収穫開始	被覆開始		

レタス キク科、原産地：中国、インドから近東、地中海地域

作物名 レタス

学名 *Lactuca sativa* L.

作型 夏まき

ことで発芽しやすくなる。

(3) 土壌条件

適応性は広く、どの土壌でも良く生育するが、酸性土壌には弱く、最適 pH は 6.0 程度である。乾燥には比較的強く、また地下水位の高い所でも生育するが、一般には肥沃土壌で良く生育する。

技術体系

1 作型の特徴

キク科の一年生草本で、変種が多いが、結球性のもので非結球性に大別される。根は直根で 30 ～ 150cm に伸び、根群は 10 ～ 15cm の深さに多く分布する。

高温長日条件で花芽分化が起こり、抽だい・開花する。花茎は直立し 90 ～ 120cm 位に伸長し、花は頭状花で早朝に開花し午前中に閉じるが、自家受精でほとんど交雑はしない。

2 適応地域

全域

3 栽培条件

(1) 温度条件

種子は光発芽性で、発芽適温は 15 ～ 20℃ であるが、種子には休眠性があるので注意を要する。生育適温も冷涼な気候を好み、15 ～ 20℃ が適温である。25℃ 以上では徒長気味となり、10℃ 以下では生育が緩慢となる。

(2) 光条件

高温時の発芽では、休眠しやすいが、光を当てる

4 施設装備

雨よけハウス栽培及びマルチ栽培

5 経営目標

- | | |
|------------|---------------|
| (1) 収量 | 2 t / 10 a |
| (2) 投下労働時間 | 210 時間 / 10 a |
| (3) 所得率 | 45% |
| (4) 経営規模 | 100 a |

(家族労働力 2 人の場合)

栽培技術

1 品種と特性

レタスは品種間で早晩性や低温・高温に対する適応性などに対する差が大きい。このため、各作期ごとの条件に適合した品種を選定することが重要である。

「オリンピア」

早生種で耐暑性があり、葉重型品種である。

「カーザー」

晩抽性の極早生種。耐暑性がある葉数型で、耐寒性は劣る。

「極早生シスコ」

極早生種で、耐暑性に優れ、耐乾性もよい。葉重型で日持ちが良好である。

2 育苗

(1) 播種方法

播種量は 10a 当たり 40 ml とする。高温期 (25℃ 以上) には必ず催芽を行った後播種を行う。一般的な催芽法としては、種子を十分吸水させた後、乾燥しないように注意し、冷蔵庫で低温にあてる。

①ペーパーポット仮植法

水稻育種箱に散播し、薄く覆土する。播種後は十分に灌水し、地温を下げるため寒冷紗等で遮光する。その後、本葉一枚の頃ペーパーポットに仮植する。苗は定植本数より一割程度多めに準備し、10a 当たり 43 箱とする。

②ペーパーポット直播法

ペーパーポットに 2～3 粒ずつ点播し、薄く覆土する。播種後は十分に灌水し、地温を下げるため寒冷紗で遮光する。その後適時、間引きを行い、本葉 1 枚時頃に 1 本残す。

(2) 育苗管理

①温度・光管理

高温期の育苗なので、寒冷紗等で遮光するが、徒長苗にならないよう十分注意し、育苗後半は徐々に光をあてる。

②水管理

徒長苗にならないよう、仮植及び間引き後はやや灌水を控えめに行う。

3 本圃の準備

施肥、畦作り後マルチ (黒ポリ) を早めに行う。

施肥量		(k g / 10a)	
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	20	20	20

緩効性肥料で全量基肥とする。完熟堆肥 2t、石灰は土壌分析を行い、pH が 6.0 程度となるよう施用する。

4 定植

本葉 2.5～3 枚の苗を深植とにならないよう定植する。定植後は十分に灌水を行い活着を促す。

条数	畦幅 (cm)	株間 (cm)	条間 (cm)	10a 当たり 株数
3 条	1 6 0	30	35	6,250
4 条	1 9 0	33	30	6,380
5 条	2 4 0	33	30	6,310

5 定植後の管理

平均気温が 8℃ となる頃 (12 月上、中旬) を目安にトンネル被覆またはべたがけを行う。被覆時期が早過ぎると高温により変形球が多くなり、逆に遅くなると球が小球となる。

6 収穫

収穫が遅れると老化により品質が低下するので、八分結球程度の適期収穫を行う。